

水 とまちの 物語



鹿児島市水道100周年記念誌



鹿児島市水道局

水=生命の誕生

「水」が生命の源といわれるのは
なぜだろうか。

わたしたちの住む地球が誕生したのは、今から約46億年前だといわれている。誕生から数億年のときを経て、水素と酸素が結合して水ができた。水は水蒸気となって上昇して雲となり、雨や雪となって地表に降り注ぐ。地表に降った水は地表を流れる川や地下水となり、海へたどり着く。

多くの物質を含んだ海にやがて生命が誕生。水の中で誕生した単細胞生物は長い時間をかけて多細胞に進化し、さらに長い道りを経て、人類の誕生へとつながってきた。

わたしたちの体は実に多くの水分を含んでいて、新生児の体重の約80%、成人男性では約60%が水分である。

「水」は命をつなぐ大切な存在である。近代水道100年の歩みを振り返りながら、子どもたちにつなぐ「水とまちの物語」を紐解いてみたい。

